

## 人事グループ



### 経歴

H24 入職

H24～ 成人病センター 総務・人事グループ

H25～ 成人病センター 施設保全グループ

H26～ 母子医療センター 総務・人事グループ

H29～ 本部事務局 共済組合交流派遣

H31～ 精神医療センター 総務・人事グループ

### メッセージ

業務を通じて、医療の提供、ひいては府民の生活を根っこから支えている、その意識を忘れないことが大事だと思います。組織や社会の中での自分の役割を考えながら、日々前進して、業務に取り組める仲間と巡り会うことを願っています！

## 職場環境を整え、より良い医療の提供につなげる！

これまで私は、3つのセンターを経験しました。現在は、大阪精神医療センターの総務・人事グループに所属し、職員の人事・給与・福利厚生・研修に関する業務を行っています。治療や検査、看護など患者さんと直接対応するのは、医師、看護師、検査技師などの医療従事者です。これに対し、センター職員の採用のほか、給与の支給、産休・育休取得の手続きなど、いわば、職員がより良い医療を提供するための働きやすい環境づくりが仕事と言えます。

また、センターには、医師・看護師・薬剤師・放射線技師・検査技師・作業療法士など様々な職種の職員がいる上、勤務時間もそれぞれ異なります。このため、勤務の管理、支給する手当、取得する資格の管理など、職種に合わせた対応が必要です。

デスクワークだけではありません。将来、センターで看護師として働きたいと思う方を対象に開く病院見学会では、事前の準備や当日の運営に携わります。また、新規採用の職員や、センター職員を対象とする研修では、説明者として人前に立って話すこともあります。

最近取り組んでいることは、働き方改革への対応として時間外勤務の削減案の立案など、労務環境の改善に関することです。このように職員の勤務に関する業務をしていると、職員から個別に相談を受けることはよくあります。簡単なものであればすぐに答えを返せませんが、込み入った内容では、法令にあたりたり、時には社会保険労務士の先生に相談しながら、対応します。業務で対応する様々なケースを通じて、労働法や健康保険、雇用保険などの知識を得ることで、自分の経験が積み重ねられ、そのことが職員に貢献することにつながっていくことを実感します。

事務職の仕事は、患者さんの前に出ることはあまりありませんが、患者さんを支える職員のサポートがより良い医療の提供につながっていると思うと、やりがいを感じます。

私は総務・人事グループと施設保全グループの経験しかありませんが、センター間の人事異動によるジョブローテーションによって、センターを多角的・俯瞰的に見ることができます。業務内容によっては他の病院や業者と連携しながら、事業を進めることもあります。

## 患者さんが自分らしく生きられるようサポートを！

私は異業種から転職し、1年前の2020年4月に入職しました。配属されたのは、大阪国際がんセンター。センターを見た最初の印象は、なんてきれいな建物なのだろうということでした。それもそのはず、がんセンターは、2017年3月に森ノ宮から移転、新築されたばかりでした。

新しく、立派な建物を見て希望に胸を膨らませていた一方で、異業種からの転職で専門知識も持たないまま、果たしてやっていけるだろうかという不安も感じていました。

私が所属する「総務・広報グループ」は、郵券の払い出しから伝票作成、予算計画や管理、訴訟対応、がん診療連携拠点病院機能強化事業補助金申請や広報など、幅広い業務を担当しています。

その中で、私は患者さんのアピアランスケアのサポートする業務を担当しています。「アピアランスケア」とは、がん治療による外見の変化に対し医療者が行うケアのことです。単に変化前の外見に戻すのではなく、自分らしく生きられるよう、外見とともに周りの環境や患者さんご本人の気持ちを整えることにも意を用いなければいけません。

がんは病院での治療が済めば終わりではなく、長く付き合う病気です。その一方で、治療中に外見が変わることに不安を抱かれたり、気にされる患者さんも多くおられます。ただ、体に関することになるため、それを相談するにも勇気があるものです。そこで、センター内には、そんな不安や悩みを解消するため、患者さんが気軽に相談出来る場として、「セルフケアフェア」を週2日、開催しています。

ここでは、企業の協力によりウィッグ、メイク、リハビリ支援などについて無料相談や体験会を実施しています。

ニーズが多いのは、ウィッグや乳がん患者さん向けの補正下着などですが、幅広い患者さんに対応できるよう、ジャンルの偏りや企業の出展日程に気を配るよう調整に努めています。

他の病院にも出展されている外部の企業様からの情報は多種多様で、しかも貴重です。そこから得られる他院での取り組みや最新情報や活かして、次の出展で自分なりに工夫したことが、患者さんに喜んでいただけると、やってよかったなあと感じます

専門知識もなかったため、入職前は不安を募らせていました。2020年度は新型コロナウイルスの影響で、予定されていた研修が取りやめになることもありましたが、私を担当してくださるジョブトレーナーさんが隣の席におられ、いつでもなんでも聞いてと言ってくださり、仕事のチェックをこまめにしてもらったり、押さえるべきポイントを教えていただけだったので、入職後の不安は少なかったです。

## 総務・広報グループ



### 経歴

R2 入職

R2～ 国際がんセンター 総務・広報グループ

### メッセージ

まだ1年足らずですが、私は時間の許す限り、センター内を歩き回るようにしています。そのうち、他の仕事のことも見えて来はじめ、自然と知識も増えて来ました。皆さんが当機構で活躍するのを待っています！！

## 施設保全グループ



### 経歴

H25 入職

H25～ はびきの医療センター 総務・人事グループ

H26～ はびきの医療センター 施設保全グループ

### メッセージ

事務職は様々な職種の医療スタッフ、患者さん、医療機器や工事の業者さんなど、日々多種多様な人達と接することができる楽しい仕事です。これまで医療分野に触れてこなかった方でも、仕事を通して知識を深めていくことができますので、お気軽にご応募ください。



## 年中無休の施設環境を常に最適な状態へ！

私が勤務する大阪はびきのセンターは、府立病院機構の5つのセンターの中で最も広い敷地を持ち、面積は約9万7000㎡、甲子園球場のおよそ2.4個分と非常に広大です。

2013年に入職した私は現在、施設保全グループに所属しています。私の担当は、空調や水道などの施設の保守や工事のほか、診療材料や各種消耗品等の調達、医療機器の保守管理、清掃や産業廃棄物の処理、売店や食堂といった院内業者との契約など多岐にわたります。

事務職員と言うと、医療の現場とは離れたデスクワークと思われることが多いのですが、どこかの病室で空調の効きが悪いと聞けば駆けつけるなど、患者さんによりよい医療サービスの提供と、快適な療養環境の整備に努めています。

病院には休みがありません。24時間、365日、常に患者さんがおられます。このため、施設や設備は一般のビルよりも傷みやすく、常に最適に保つためことが重要です。医療の物品を切らすわけにもいきません。メンテナンスや物品の調達は裏方ですが、業務を通じて医療の現場を間近で支えているんだと感じます。

何が不足しそうなのか、どこが傷みそうなのか。センターの運営に支障を来さないよう常に先回りして準備するため、現場の医療スタッフとの密な連携は欠かせません。そのため、平日頃から医療スタッフとはコミュニケーションを取ることを心掛けています。日頃から顔の見える仕事をすることで仕事がしやすくなると思うからです。

広大な敷地、施設の中で、直接現場に足を運ぶことも多いですが、その分自分の仕事が医療現場を支えているという実感が得られて、やりがいがあります。

## 安定した病院経営を行うために！

入職してもうすぐ丸1年が経ちます。

現在、勤務している大阪母子医療センターは、妊産婦や赤ちゃんなど周産期・小児を中心とする医療機関です。

ここで私は経営企画グループに所属しています。グループの業務は、収入・支出などの財務管理のほか、センターの経営分析や経営改善などを行います。

この中で私の担当は、主に3つです。

1つ目は経営企画業務です。

医療機関は府民の生活にはなくてはならない存在です。センターは将来にわたって安定的に運営されなければなりません。そのために、毎月の収入、支出の数字をチェックし、経営分析をすることで、短期的、中期的だけでなく、将来の方向性を見通し、今後の取組みを立案します。

2つ目は経理業務です。

センターの収入や支出は多種多様にわたります。こうした金銭の出入りが適正に行われているか、管理しています。例えば、機構で定める規定に沿って支出されているか、書類に不備はないか、不適切な会計処理がされていないかなど、毎月、職員が作成する伝票に誤りがないかチェックをしています。

最後に、広報業務です。

患者さんや職員向けに発行する広報誌づくりに携わっています。利用者さん向けの「母と子のにわ」は毎月年に数回、定期的に発行しています。センターでの取り組みの紹介のほか、高度な医療技術を説明するシリーズでは、利用者さんが理解しやすいように、難しい医療用語をもっと平易な表現にしてほしいと医師に直接談判することもあります。また、センターの医師・栄養士が監修する季節の食材を使った料理のレシピを掲載するなど、親しみやすさにも心掛けています。

職員向けの広報誌はいわば社内報です。取り上げる人物の人物柄、診療科や病棟の紹介など職員が生き活きとセンターで働く様子が伝わるように工夫しています。取材に行くと、初めて聞くことも沢山あり、自分の視野が広がります。取材の内容をまとめるのは苦勞しますが、センターの内外をつなぐ媒体に関わっていることに、ちょっぴり誇らしく思います。

皆さんは、「事務職」と聞くと、座り仕事をイメージされる方が多いかもしれません。しかし、どの業務も医療現場で働く医療従事者抜きには決してできません。この仕事は、常に、現場に足を運び、ときには走り回りながら、医師や看護師などに意見や考えを自分から聞きに行くことが大切だと感じています。

## 経営企画グループ



経歴

R2 入職

R2～ 母子医療センター 経営企画グループ

### メッセージ

入職した頃は、分からないことばかりで不安でしたが、先輩方が優しく丁寧に教えてくださいました。ぜひ皆さん一緒に働きましょう！





### 経歴

H30 入職

H30～ 本部事務局 財産経理グループ

### メッセージ

私のように全く専門知識がなくてもやってこられたのは、厳しいけれど、困ったときには暖かく助けてくれた上司や先輩がいたからです。あとは、やる気、困難な課題にも諦めない気持ちがあれば大丈夫です！

皆さんと一緒に働けることを楽しみにしています。

## 法人全体の経営データを数値分析！

「なんやろう、、、この訳の分からない言葉のオンパレードは、、、！？」これが機構に入ってからすぐの感想でした。

平成30年4月、大学卒業後すぐに機構に入職した私が配属されたのは、本部の財産・経理グループでした。大学は経理とは縁のなかった学部だったので、苦勞するのは当たり前だったかもしれません。仕事に役に立つからと、上司に簿記検定の取得を勧められてからは、先輩方に教えてもらいながら猛勉強。学生の頃以上に勉強したかもしれません(笑)。そのおかげで一発合格しましたが、今となってはいい思い出です。

グループでは、法人全体の経理、会計事務の処理や審査を行います。他にも、決算や財務諸表の作成、固定資産管理の統括・調整など多岐にわたります。

入職3年目の私の主な業務は、5つの医療センターから届く伝票の処理・審査・承認のほか、日々の支出や口座残高の管理です。

毎月の理事会では、『月次決算』の報告が行われます。そのために、日々積み上げて作成したデータを数値分析し、分かりやすく説明できるようグラフ化します。

デスクワークだけではありません。作成した資料について、経営企画の担当グループと議論したり、理事長に説明する場面もあります。ときには、理事長から「君はどう思う？」と訊かれ、ドキドキすることもあります。自分の作った資料が今後の経営方針を決める根拠になるかと思うと、思わず身も引き締まりますし、やりがいを感じる瞬間でもあります。

私は、医療センターでの勤務経験なく、本部での勤務となりました。現場での経験があれば、数値の理解も、もっと的確にできるのと思うこともありますが、年間800億円を超える収入のある法人全体の経営状況を把握できるのは、今後、大変勉強になる業務だと実感しています。

どのグループに配属されるかは、分かりません。3年間で感じたことは、簿記検定は役に立つ、数値分析をすることで幅広い視野で物事を考えるようになったということです。

## 様々な現場の意見を聞き取り、患者様によりよい環境を！

私は3年前に機構に入職、急性期・総合医療センターに配属されました。そのときから医事グループで勤務しています。

医事の仕事は会計業務、診療報酬の請求、受付業務、施設基準の届出、医療法上の届出など多岐にわたります。その中で私が担当している業務を皆さんにお伝えし、イメージを持って頂ければと思います。

病院は様々な法律に基づいて設置、運営されています。担当業務の1つに、「医療法上の届出」というものがあります。

患者さまのニーズや新たな治療の方針により、病院の建物の構造や施設を変えなければならない場合があります。

しかし、病院の設えを勝手に変えることはできません。医療法によって、あらかじめ保健所への手続きを済ませておく必要があるからです。

具体的には、診察や検査をスムーズに行ったり、病床数（ベッド数）を増やすため、診察室、検査室・レントゲン室や病室（病床）の増築など患者さまが利用する施設に手を加えるときや、CT、MRI撮影機器など大型の医療機器を設置するために建物の改修工事を行うときなどには、保健所に図面や書類を保健所に提出します。

実際に改修工事を行った後は、保健所による立ち入り検査を受ける。これが一連の業務です。このように書くと書類を整えるだけのように見えるかも知れません。

しかし、工事に着手するまでには、実際に使う医師、看護師や検査技師など医療従事者などと何度も協議したり、調整を行います。患者さまの利便性を高めたい、機器の使い勝手をよくしたいなどの要望が現場から寄せられます。

よりよい環境を患者さまに提供したいと思う一方で、経費はいくらでもかけるというわけにはいきません。患者さまの導線など、様々な現場の意見を丁寧に聴き取り、調整するためフットワークよく現場に行き、コミュニケーションを重ねます。こうして、具体的に取り組むことが明確になります。

病院機構では、多様な職種、多くの職員と一緒に仕事ができる職場です。自分にはない専門的な知識を持つ方々と関わることでさまざまな経験ができ、自分自身が成長できることを実感しています。

## 医事グループ



H30 入職

H30 急性期・総合医療センター 医事グループ

## メッセージ

コミュニケーションや医事経験がないことで不安や心配されている方がいるなら大丈夫です。上司や先輩が親切丁寧に教えてもらえますので心配なさらなくても大丈夫です。

ただ、みなさんも率先して業務や知識を学ぶことも必要です。